

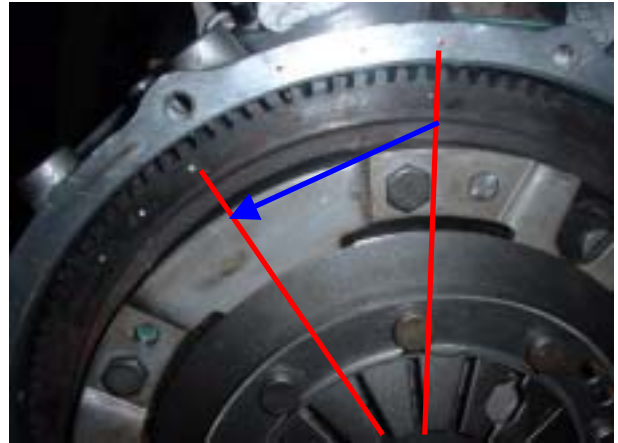
今回はインジェクション用のエンジンに強化クラッチを組み込んでみましょう。ミニのインジェクション車はフライホイールに組み込まれているピックアップリング（リラクターリング）でクランク角信号（回転信号）を取り出しています。専用のクラッチカバー以外を使用する場合リラクターリングが正規の位置にならず、点火時期の位相で調子が悪くなる場合や、エンジン始動しない状態になります。リラクターリングを正規の位置に打ちかえる事により、全てのクラッチカバーが使用できるようになります。今回使用したカバーは品番「HE3864」でERAなどに使用の純正強化品です。そのまま組んでしまうと数十度クランク角進んでしまうため、リラクターリングをクランク角の位相分戻しました。



はじめにクランク角のズレを正確に測定する為に、バルブタイミング測定用の円分度器を装着して、基準位置出します。今回は1番圧縮上死点で出していますが、基準なのでどこでも構わないでしょう。



0点を出したらノーマルカバーのフライホイール位置をマーキングします。この位置が本来あるべきフライホイールの位置ということになります。



上の写真が強化カバーを装着した事によるフライホイールの取り付け角度のズレです。マーキングを本来の位置に戻して先ほど装着したクランク角測定用の円分度器にて位相角を読むことで、実際に何度ずれていたか確認できます。使用するカバーによってズレ角の違いがあるので、装着するカバーごとに測定したほうが正確でしょう。



左がフライホイールから抜いたリラクターリングです。位相角分ズラして打ち込むことでクランク角信号のズレを解消します。又若干角度を変えて装着する事で、点火時期をずらすことも出来ますが基本的にはお勧めしません。又完璧に位相角分ずらすことは難しいと思いますので、点火時期コントローラー等の装着をお勧めいたします。

角度を合わせてリラクターリングを打ち込みます。後は通常のクラッチ交換と同じ用に組みあげて装着～最後にクランク角のチェックをして終了です。インジェクション車の場合アイドルリングでの点火時期は一定では有りませんが、事前に測定しておくことも重要だと思います。

